

The First Mile

- Derek Prince

デレク・プリンス 教えの遺産アーカイブ

学びの書簡シリーズ

最初の一ミリオン

最初の一ミリオン

あなたに一ミリオン行けと強いるような者とは、いっしょに二ミリオン行きなさい。(マタイ 5:41)

イエスはここで、律法、あるいは社会的慣習が、「自分と一緒に一ミリオン歩け」と他の人に強要される状況を描いています。イエスは弟子たちに言いたかったことは、「もし、あなたがそのような状況になったら、その人と一緒に一ミリオン歩くだけではなく、一緒に二ミリオン行きなさい。あなたに要求された二倍のことをしなさい。」です。最初の一ミリオンは「義務」を表わし、二ミリオン目は「愛」を表わすと言えるでしょう。愛とは、義務が要求できる二倍のものを喜んで行なうことです。

このイエスのことばは、英語話者がよく用いる、「going the second mile」(言われた以上のことをする、全力を尽くす)ということわざになっています。しかし、多くの場合、その中に含まれる単純で論理的な意味は見過ごされています。多くのクリスチャンは愛の行ないは、まるで通常の個人的、社会的義務から自動的に放たれるかのように話し、行動します。しかし、実はその正反対です。あなたは、一マイル行かなければ、二マイル目に行くことができません。最初に義務の要求に応じて初めて、愛の表現が始められるのです。

同じ原則をパウロはローマ 13:8 で表現しています。「だれに対しても、何の借りもあってはいけません。ただし、互いに愛し合うことについては別です。」ここでも、順序が大切です。否定的、消極的な要求が最初に来ています。「だれに対しても、何の借りもあってはいけません。」これには、律法的、道徳的義務のすべてが含まれます。私たちはまずそれらの義務を果たさなければなりません。そのあと、「互いに愛し合う」という肯定的、積極的な要求に移ることができるのです。クリスチャンの愛には、律法的、道徳的義務を果たしていないという矛盾があります。それをこのように言い換えることができるでしょう。「本当の愛は、まずすべての負債が支払われていることで確かなものとされる。」

安っぽいアガペー

多くのクリスチャンが聖書的愛に間違った概念を持っています。この種の愛は、宗教的なありきたりのことばや、耳障りのいいことばで表わされる感傷的な態度ではありません。ある人が、そのように非聖書的な偽物の愛を、「安っぽい

いアガペー」と言いました。使徒ヨハネはそれに対して警告を与えています。「ことばや口先だけで愛することをせず、行いと真実をもって愛そうではありませんか。」(I ヨハネ 3:18)。真の聖書的な愛とは、ことばによるのではなく、まず行動によって表わされるものです。

ルツ記に出て来るナオミの二人の息子の嫁たちのふるまいは対照的です。「彼女たちはまた声をあげて泣き、オルパはしゅうとめに別れの口づけをしたが、ルツは彼女にすがりついていた。」(ルツ 1:14)。オルパは愛を、口づけという表面的な形で表わしましたが、ルツは義理の母の必要に寄り添うという行ないによって愛しました。私は、自分が大変な状況にある時、自分に口づけをしてくれる人に関心はありません。私の力になってくれる人が欲しいです。箴言でも、このことについて警告しています。「あからさまに責めるのは、ひそかに愛するのにまさる。憎む者が口づけしてもてなすよりは、愛する者が傷つけるほうが真実である。」(箴言 27:5-6)。うわべだけの愛は、物事がうまくいっているときは、甘い言葉で私たちにお世辞を言いますが、私たちが困難な状況にある時には、私たちを裏切ります。真実の愛は、時には私たちを傷つけることがあるかもしれませんが、あとで裏切るというようなことはしません。

ユダが口づけによってイエスを敵に売り、実際に裏切ったことは意味のないことではありません。イエスご自身がこのように命じておられます。「ユダ。口づけで、人の子を裏切ろうとするのか」(ルカ 22:48)。それに一致する行動が伴わない表面的な愛の表現は、裏切り行為です。

エペソ 4:15 で、パウロはクリスチャンが成熟に達することができる唯一の方法を書いています。「むしろ、愛をもって真理を語り、あらゆる点において成長し、かしらなるキリストに達することができるためなのです」。真理を語らない愛はすべて見せかけの愛です。いつまでも続く価値ある交わりは、互いの誠実さに基づくものでなければなりません。

「しかし、もし神が光の中におられるように、私たちも光の中を歩んでいるなら、私たちは互いに交わりを保ち…」(I ヨハネ 1:7)。真の交わりは、光の中でのみ可能なのです。私たちは暗闇の中で交わりを持つことはできません。使徒ヨハネは神のご性質について、単純ではありながらも意味深い二つのことを語っています。「神は光であって…」(I ヨハネ 1:5)と、「神は愛だからです」(I ヨハネ 4:8、16)。神の愛は、決して神の光から離されることはありません。神の愛は闇の中では働かないのです。

愛は「おおい隠す」のではなく、「おおう」

使徒ペテロは、「愛は多くの罪をおおう」(I ペテロ 4:8)と教えています。ここでも、多くのクリスチャンの間には誤解があります。ペテロは、「おおう」と言っているのであって、「おおい隠す」とは言っていません。罪を掃除してじゅうたんの下に隠し、何事もなかったかのような振りをする多くのクリスチャン団体やグループの間に蔓延している慣習のようなものについて言っているのではありません。クリスチャンの愛は、神が罪をおおってくださる同じ方法で罪をおおいます。まず、罪は光の中に持ってこられなければなりません。罪を認め、告白し、悔い改めなければなりません。必要であれば、罪の償いをしなければなりません。そのあと初めて、真の聖書的赦しによって、罪がおおわれるのです。

時に、「愛」という一つのテーマだけを掲げているクリスチャングループに出会うことがあります。私の経験から言えることは、そのようなグループの中には、教理的な誤りや告白していない罪のどちらか、あるいは両方があります。愛が「おおい隠すもの」として利用されているのです。罪が問題であるとしたら、それは通常そのグループのリーダーの

生き方の中に見られます。もし、私たちが本質をしっかりと見て問題を明らかにし始めるなら、「兄弟、あなたには愛がない。」という非難を直ちに回避できます。もう一度強調したいと思います。「真の聖書的な愛は、ことばによるのではなく、何よりも行ないによるものです。」

一ミリオンと二ミリオンのたとえに戻りましょう。愛と義務の関係です。真の愛は、律法と社会的義務を果たして初めて始まるということを見てきました。それとは対照的に、それらの義務を果たしていない愛は偽物です。その原則は、クリスチャンの日々の生活に当てはまる数多くの方法があります。以下に、私自身がクリスチャンたちを観察して、よく見られる矛盾をいくつか挙げました。

海外宣教という偶像

かつて私は、自分たちの海外宣教プログラムに極端に誇りを持っている教会に出会いました。教会員はかなり少ないのですが、海外宣教に異常なほど大きく献身していました。宣教促進を専門とした伝道師が宣教のための約束献金を募るキャンペーンのために招待されました。彼にはささげられた献金の 10%だけを謝礼として支払い、残り 90%は宣教のためにささげるというものでした。その 2 週間の間に 5 万ドルを超える約束献金がありました。その約束はかなり遅れて入って来る献金や、結局入って来なかった献金もありました。しかし、伝道師には最初の約束通り 5 千ドル以上の謝礼を支払いました。(たった 2 週間の奉仕です)。

その献金は海外宣教のためにささげられましたが、教会や教会員たちは電話代、光熱費など社会的義務の支払いが滞ったり、借金をするなど苦しみました。とうとう私は、そのやり方についてその教会員たちに、「もし、この献金のすべてが宣教のためだと言うなら、自分たちを偽っていることになる。」と言いました。「このお金は実際にはローン会社やその他の負債からのお金です。人々は宣教をサポートするためにそのようなところに支払うお金を取っていることになり、それは不誠実で良くないことです。私たちは他人のお金で自分たちの宣教をサポートしていることになるのです。」

実際的にそのような特定の状況において、海外宣教が教会の「偶像」になってしまっていました。教会員たちは明らかに家庭での自分たちの義務を果たさない一方で、「偶像」に犠牲を払っていました。時に、「海外の地」に引きつけられることは、私たちが置かれている地域の中に私たちの信仰を表わす以上に容易なのです。

悟りのある者はその顔を知恵に向け、愚かな者は目を地の果てに注ぐ。(箴言 17:24)

アルコール依存者、それともカリスマ派の人？

ある時、私は長屋のように隣接した家々の一軒を所有し、家主のような立場にありました。その一軒を借家として無職のクリスチャンで、実はアルコール依存の夫婦に貸していました。彼らはきちんと家賃を支払い、その家をきれいに使っていました。ある時、長屋の別の家に住む女性が、夫に突然死なれました。誰よりも最初に、その女性に具体的なあわれみを表わしたのは、そのアルコール依存の妻でした。彼女は翌朝 200ドルの小切手を持って、夫を亡くしたその女性に渡したのです。

やがてそのアルコール依存の夫婦は引っ越して行き、新しい入居者が越してきました。彼らはカリスマ派の活動に参加している家族でした。その家族は、自分たちのためにかなり高額な買い物をしていましたが、期日までに家賃を

支払ってくれることはまれでした。近所の人たちは私に不平を言い、市の当局者に問題を提起する恐れもあるほどに、子どもたちも世話せず、家も手入れせず、ほったらかしでした。

ある日、私はその状況を思い巡らしていました。私自身がクリスチャンでなかったとして、誰かが「あなたは、アルコール依存の人とカリスマ派の人とどちらに家を借りてほしいですか。」と尋ねたら、どう答えるだろうか。疑いなく、こう答えるでしょう。「アルコール依存者、大歓迎です！」

「ただ、みことばをみんなに提供しているだけじゃないですか。」

ある時、私のクリスチャンの友人たちが、事前に私の許可を得ることも、願い出ることもなく、私のメッセージのテープをコピーしてたくさん売っていました。しばらくして、それにはかなりの利益が発生するに違いないと私は気づき、その会計報告のようなものを見せてほしいこと、また印税のようなものが私に支払われるのかと聞きました。私は、「ただ、みことばをみんなに提供しているだけじゃないですか。」という愛と厚かましさを抗議に遭いました。そして私は、会計報告も印税もまったく受け取ることはできませんでした。

のちに、私のミニストリーによって利益を得ていた人々が、私の動機が「貪欲」であると私を非難しました。さらにひどいことに、それは私を直接非難するのではなく、陰で私を悪く言っていたのでした。私は自問自答しました。「神は本当にご自身のことばがこのような人たちによって広められるのを喜んでおられるのだろうか。」と。

能率的なクリスチャン

Ⅱ ペテロ 1:5-7 に、キリストへの信仰を持ったことに続いて起こる七段階の霊的発展のリストがあります。「*信仰には徳を、徳には知識を、知識には自制を、自制には忍耐を、忍耐には敬虔を、敬虔には兄弟愛を、兄弟愛には愛を加えなさい。*」これは、私たちに一マイルと二マイルのたとえを思い起こさせます。愛は、順を追った霊的成長の基礎の上に建てられなければなりません。その基礎が据えられていなければ、真のクリスチャンの愛は決して出てこないのです。

最初に信仰に加えられなければならないのは、徳です。現代用語で言うなら、「優秀さ」、あるいは「能率」でしょう。能率がクリスチャンの徳に欠かせないものであることを理解しているクリスチャンはほとんどいません。一方、聖書は怠惰や愚かさについて良い言葉を用いている箇所は一つもありません。事実、怠惰や愚かさはどちらも重い罪で、酩酊以上に致命的な結果を招きます。私は東アフリカで5年間師範学校の校長を務め、その間に多くの学生たちがキリストに従うようになり、聖霊のバプテスマも受けました。彼らはクリスチャンになったら、私に筆記テストや実習で甘い点数をもらえるといったような、ひいきをしてもらえると考えていることに私は気づきました。私は、全くその逆であることを彼らに説明しなければなりませんでした。

私はこう言いました。「今や、あなたはクリスチャンです。あなたには、以前にはなかったすべての源があるのです。あなたの心の中には神の平和があり、求めることのできる祈りの力と聖霊の力を持っています。あなたがそれらの源を用いずテストや実習で合格できたのなら、クリスチャンとなったあなたは、今やその二倍の成功を収めるべきです。私はあなたの小さなものを期待しているのではなく、さらに大きなものを期待しています。神も同じようにあなたに期待しておられます。」

あなたの職場や家庭など、あらゆる活動分野にも同じ原則が当てはまります。教師や医者、看護師、ウエイトレス、技術者、清掃員などとして働いているかもしれません。どのような分野であれ、クリスチャンはその仕えている場所で常に優秀でなければなりません。さらに誠実であり、さらに信頼に値し、能率的であるべきです。

主は一般の職業でも、フルタイムの献身者でも、失敗する人を召しておられるのではないと、私は考えます。神はその人にさらに大きな霊的任務を任せる前に、その人は一般の職業において常に自分自身を証明しなければなりません。誠実さは小さなこと、世のことから始まり、その後それは大きく、霊的なことにおいて十分な結果を出します。イエスはこの原則をルカ 16:10-11 で非常に明確に打ち建てています。

小さい事に忠実な人は、大きい事にも忠実であり、小さい事に不忠実な人は、大きい事にも不忠実です。ですから、あなたがたが不正の富に忠実でなかったら、だれがあなたがたに、まことの富を任せるでしょう。

家族への義務が第一

I テモテ 5 章でパウロは、クリスチャンが自分の家族に対する義務を体系的に取り扱っています。これに関連してパウロは、「もしも親族、ことに自分の家族を顧みない人がいるなら、その人は信仰を捨てているのであって、不信者よりも悪いのです。」(I テモテ 5:8)

それぞれの家庭での生計は通常、父親が責任を持っています。これは食料だけではなく、衣服や貯金も含みます。エペソ 5:25-28 でパウロはキリストと信者の関係を、夫と妻の関係と比較しています。キリストがみことばのきよい水で教会をきよめるように、夫は神のことばの真理で妻や子どもたちをきよめる責任があります。父親は自分の家族へ霊的真理の源となるべきです。

エペソ 6:4 でパウロは、父親には子どもたちの霊的教育の責任を持たせています。「父たちよ。あなたがたも、子どもをおこらせてはいけません。かえって、主の教育と訓戒によって育てなさい。」

これを要約するなら、各家庭の父親には、放棄することのできない神から与えられた二つの責任があると言えます。それは、家族に対する預言者であり、祭司であるということです。預言者として、父親は家族に対して神を表わし、祭司として、神に対して家族の代表となります。この二つの義務を忠実に行なうために、父親にはある最小限の時間を家族のためにささげることが求められます。

多くの男性はこの家族への義務において十分な時間を取っておらず、牧師や伝道師などフルタイムの働き人は、おそらく最もそれができていない人々でしょう。これは、牧会者にも、巡回伝道者、宣教師にも当てはまります。定住している牧師は、自宅での家族との時間をほとんど取れないほど頻繁に役員会や委員会を開き、教会中心の生活を送っています。巡回伝道師などは、キリストのために武者修行のように世界中を巡りますが、欲求不満、苦々しさ、反抗の感情によって引き裂かれた妻や子どもたちを家に残したままになります。それは、おもに家族を軽視していることに起因します。ある時、アフリカで何年間も宣教師として仕えた両親を持つ若者が言ったことを、いつも思い起こします。「私の両親は確かにアフリカ人を愛していたが、子どもである私たちを愛してはくれなかった。」

これらの重要な義務を果たさない親に対して聖書は、「その人は信仰を捨てているのであって、不信者よりも悪い

のです。」と断言しています。

「不信者よりも悪い」人が、福音を宣べ伝える働きをするのでしょうか。

パウロは、コリントの教会の信者に宛てて、「あなたがたは、信仰に立っているかどうか、自分自身をためし、また吟味しなさい。」(Ⅱコリント 13:5)と書いています。私たちの多くがそれを心に留める必要があります。「二マイル行く」ことについて宗教的なありきたりの理論を説く前に、「最初の一マイルを行ったか」を、確かめなければなりません。愛を大きく誇示する前に、自分の負債をすべて支払ったかどうかを確かめましょう。